

夏の

まちまる新聞

令和元年 夏
発行：馬路村農業協同組合

近頃

馬路村の人々の暮らして
ゆず中心で忙しくなる11月
を除き、もともと活気づく
のが夏である。11月を忙し
い季節とするならば、夏は
遊ぶ季節。村の中の様々な
ものたちと真剣に遊び合
います。「自然が相手やき、
めっちゃ面白い」と目を
輝かせるおんちゃんたちに
たぶん、街の人たちは
「なんか楽しそうね」と
みなが言うことでしょう。
おんちゃんたちも決して
暇なわけではありません。
ゆずの草刈りに髪を引っば
られながら、一生懸命、
遊んでいるのです。



鮎と

おるろうか、おらんろうか、
の会話が5月になると村のあち
こちから聞こえてきます。6月
1日の解禁日には村はお祭り
騒ぎで盛り上がりを見せます。
ただし、うかつに釣果を聞く
べからず、という暗黙の鮎の
ルールが存在する。
釣らぬ者は、ありが
たいおすそ分けを
ただただ待つのみ。

ウナギと

馬路村にのぼってくる、天然モノを
それはそれは楽しみに待っている、おん
ちゃんたち。定められた漁法はあるものの
やり方や場所に独自の理論を持ちながら、
真剣にウナギと向き合います。ウナギの餌で
一番いい、と言われているのがカンタロウと呼ば
れるおつきなミミズ。村の道に出てくるそのモノ
をおんちゃんらは必死に抑え、冷凍庫の奥の方に隠
しておきます。それをお母ちゃんに見つかる、と、
「ぎゃっ」という悲鳴とともにゴミ箱へと捨てられ
ますので、上手に隠すことと、まず一番に太いの
を食べさす、と弁解を考えておくこともコツであ
るそう。なかなか奥が深い。

エアノマキと

村役場から近くにある通称「エアノマキ」村の飛び込み
スポットのひとつ。この場所に自転車をとまるようになる
と「あ、夏がきたな」と大人は実感させられます。子ども
たちの川遊びは、飛び込みやアメゴ・チチブをつかまえる等
村のポイントを子ども時代から押さえております。暑い日の
外で遊んだ後、ごっくん馬路村は最高に気持ちいい、と村の
子どもが口をそろえて言ってくれます。

リュウキュウと

村のあちこちで見かけるリュウキュウ。
茎の部分や酢の物などで食べるが、収穫
時は子どもたちの持ち物になることも
しばしば。大きな葉っぱのものはそれを
めぐって喧嘩が
村の遊びの一つ
です。勿論、
おぼちゃんの
酢の物は、
絶品の村の味。



風と

風が気持ちいい、と思えるのが夏やと思います。
朝に川から上がってくる風、山からおりてくる風、
谷から流れてくる風、いろんな風が村には吹いて
います。馬路村には風を感じるためのアイテム
「木のうちわ」をつくっているエコアス馬路村と
いう会社があります。「もう山では食べていけん」
と言われ、村の林業が衰退していく中で、この
山をなんとか元気にせなかん、と木の加工品
をつくって、頑張っている会社です。
この木のうちわから香る風は、きっと村の空気が
届くはず。村を流れ
る風は格別ですが、
少しでもその風を
感じてみて
ください。



音と

安田川を流れる水。突然
やってくる夕立。そら高く
飛ぶトンビたちの鳴き声。
川向の畑の草刈り機。ときたま吹くゴウゴウと
した山の風。川を覗くおんちゃんたちの笑い声。
5時の仕事終わりを知らせる村のチャイム。
保育園からの遊ぶ声。カジカガエルの大合唱。
馬路村は自然の音以外はあまり聞こえませんで
夏の音が村の中に響きます。夏の楽しみのひとつ。



畑の中で考える。

畑の仕事は、ゆずと向き合い汗を流す作業。だけれども、おんちゃんたちはただただ無心で作業をしておるわけではありません。畑づくりと村づくり、草刈りと高齢化、農家と経済、少し遠いようで近い相互のコトを、実はおんちゃんは畑で考えているのです。次につながるかつならないかは問題ではありません。おんちゃんは考え込んでいます。

日本の村の数は二〇〇を切った。馬路村の名を残すように頑張らなあ。

村のみんなも年がたって、草刈り作業が大変になってきたなあ。けんどけん、みっともない畑にするわけにはいかん。隣の畑に迷惑をかけるわけにはいかん。有機をやめるわけにはいかん。

馬路村へ遊びにくるお客さんが少しずつ増えてきた。私たちはその人たちに何ができたろう。もらうばかりじゃいかん。ちゃんと、還さないかなあ。

相名の橋がちよつと傷んできちよつたな。よし、村長に言うちよう。

しかし日本の農家はどくなるうかなあ。ちよつと減りゆうと聞くが、えい策はないもんかなあ。

村を出た孫は野球を頑張るゆうるか。今度帰ってきたときはおらが釣ったとびきりの鮎を食べさせちよう。

これ村の味がやなあと思っ。



ゆずの効いた五目寿司が突然にやつてくる。「つくり過ぎたらしい、」

と、家へ持つてきてくれるケンちゃん。奥さんのゆきこさんは寿司づくりの名人。女性部としてイベントや村の宴などに腕をふるい、大きなハンボウで混ぜながらつくる寿司は、つくる様も大迫力。たくさんのご飯と具材があつという間においしい五目寿司へと変わる。そして、いつも、いつも、つくり過ぎたと持つてきてくれる。でも、つくり過ぎを決してやめようと思わない。ゆきこさんの温かさを今日もいただきます。ゆずの効いた五目寿司だけが、村の味を演出するわけではなく、つくり過ぎのこの温かさも含めたものが、村の味やなあと思う。

ゆずの味はじまる 11月3日 祭

ゆずの収穫はじめを祝う「ゆずはじまる祭」を今年も11月3日に開催します。おこないます。搾りたてゆず酢販売やごつくん飲み放題など小さな村ながら精一杯のおもてなしでお迎えしたいと思ひます。この機会に村の空気を吸いに来てみてください。



馬路村 10年目のいとうこと



馬路村に移住してはや十年。色々村のみんなに世話焼いてもらい、暮らしております。今日は、ちよつと私の子どもたちの話を。馬路村で生まれた子どもも六歳となり、いわゆる馬路チルドレンでありますので、村外出身の私と違う感覚に日々驚くばかり。道を歩けば、おやつ代わりのイタドリ（山菜）をポキリ。野イチゴのある場所をどれだけ知っているかがトレンドで一緒に散歩をしていると山の山頂まで連れていってくれ、野イチゴでお腹いっぱいになり晩御飯が食べられず、お母ちゃんに怒られたりなど。村のおんちゃんたちとも友達で、新しい自転車を買ったため一日中ストアの前をいたりきたり。「お、えいねえ」と言うてくれるのを喜んでいます。村に住んで十年目、この村が大好きですが、この子たちが村に抱く愛情の強さは、きつと私では敵わないだろうなあと思ひます。

こまじまい 馬路村への道



高知市から室戸方面に約51km 国道55号線を太平洋沿いに進むと安田町へ入る。そして、左に大きい魚が見えてきたら左へ曲り、安田川沿いをくわくわと上る。県道12号線を通る事、20km。約30分、ようやく馬路村に着きます。ようこそ、馬路村！